(エ)　全データの電力総和を算出し、これをP_Sとする。また、算出した各周波数の電力総和P_Sの値をあらかじめ(ア)で測定した搬送波の振幅値で除し、各不要発射周波数における搬送波の振幅からの減衰量を算出する。

電力総和の計算は次式による。ただし、参照帯域幅内の電力の真値（ＲＭＳ）が直接測定できるスペクトル分析器の場合は、近傍帯域１及び近傍帯域１以外においてその値を用いることができる。

$$P_S = \left(\sum_{i=1}^{n} E_i\right) \times \frac{S_w}{RBW \times k \times n}$$

P_S　：各周波数での参照帯域幅内の電力総和（W）
E_i　：１サンプルの測定値（W）
S_w　：掃引周波数幅（MHz）
RBW　：分解能帯域幅（MHz）
k　：等価雑音帯域幅の補正値
n　：参照帯域幅内のサンプル点数

⑵　帯域外領域におけるスプリアス発射の強度

ア　スペクトル分析器を２⑶のように設定して、搬送波抑圧フィルタを通さずに搬送波振幅の平均（電力次元の真数平均）を測定する。ただし、バースト波の場合はバースト時間内の平均を測定する。

イ　試験機器の状態を３⑶とし、帯域外領域のスプリアス探索を行う。次に、スペクトル分析器を２⑸のように設定し、探索したスプリアスの振幅値の内の最大値（設備規則に規定する許容値に対する余裕が最も少ない値）を測定値とする。

５　試験結果の記載方法

⑴　減衰比で記載する場合は、スプリアス発射及び不要発射電力の最大の１波を搬送波振幅に対するスプリアス発射又は不要発射振幅の比を用いて、dB単位で周波数とともに記載する。

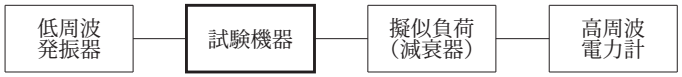
⑵　電力で記載する場合は、スプリアス発射又は不要発射電力の最大の１波を、あらかじめ測定した空中線電力測定値に⑴の減衰比を用いて算出し、μW単位で周波数とともに記載する。

６　その他

掃引周波数幅125kHzの状態でスペクトル分析器の分解能帯域幅を10Hzとして測定する場合は、掃引時間中の試験機器の送信レベル等に変動がないことを確認する。

七　空中線電力の偏差

１　測定系統図



２　測定器の条件

⑴　高周波電力計は、熱電対又はサーミスタによる熱電変換型とする。

⑵　擬似負荷（減衰器）の減衰量は、高周波電力計に最適動作入力レベルを与えるものとする。

３　試験機器の状態

⑴　試験周波数に設定する。

⑵　正弦波の１kHzにより変調する。

４　測定操作手順

⑴　高周波電力計の零点調整を行う。

⑵　試験機器を送信状態にする。

⑶　音声信号入力端子に定格出力の数10%を起点にして、変調信号を順次増加しながら加え、送信電力を監視する。

⑷　送信電力が飽和するまで⑶の操作を続け、その点の平均電力を測定する。

５　試験結果の記載方法

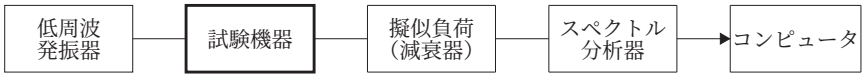
⑴　平均電力の絶対値をW単位で記載するとともに、その変調入力レベルを記載する。

⑵　空中線電力が飽和したときのデータを添付する。

⑶　空中線電力の絶対値をW単位で、工事設計書に記載される空中線電力に対する偏差を%単位で＋又は－の符号を付けて記載する。

八　隣接チャネル漏えい電力

１　測定系統図



２　測定器の条件

スペクトル分析器を次のように設定する。

中心周波数	試験周波数
掃引周波数幅	25kHz
分解能帯域幅	100Hz
ビデオ帯域幅	300Hz
入力レベル	ミキサの直線領域の最大付近となるレベル
掃引時間	測定精度が保証される最小の時間
掃引モード	連続掃引
検波モード	サンプル
振幅平均処理回数	５回から10回まで（スペクトルの振幅が変動しない場合を除く。）。

３　試験機器の状態

⑴　試験周波数に設定して送信する。

⑵　1.7kHzの正弦波信号によりモデム信号入力端子から変調し、送信装置の出力電力を定格出力の80%に設定する。

４　測定操作手順

⑴　掃引を終了後、全データ点の値をコンピュータの配列変数に取り込む。

⑵　全データについてdB値を電力次元の真数に変換する。

⑶　全データの電力総和を算出し、全電力P_Cとする。

⑷　上側隣接チャネル漏えい電力P_Uの測定

ア　（試験周波数＋6.25kHz）を中心に±1.7kHz内に含まれる各データをコンピュータの配列変数に取り込む。

イ　データ点ごとに電力真数に変換し、このデータ値の総和を算出し、これをP_Uとする。

⑸　下側隣接チャネル漏えい電力P_Lの測定

ア　（試験周波数－6.25kHz）を中心に±1.7kHz内に含まれる各データをコンピュータの配列変数に取り込む。

イ　データ点ごとに電力真数に変換し、このデータ値の総和を算出し、これをP_Lとする。

５　試験結果の記載方法

次の隣接チャネル漏えい電力比をdB単位で記載する。

上側隣接チャネル漏えい電力比：$10\log(P_U/P_C)$

下側隣接チャネル漏えい電力比：$10\log(P_L/P_C)$

６　その他

２及び４の試験周波数は、割当周波数とする。

九　副次的に発する電波等の限度

１　測定系統図

